

研究主題

「自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとする児童の育成
ー学級活動(1)における、各教科等で身に付けた資質・能力との関連を図った
教室環境の工夫を通してー」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

杉並区立高円寺小学校 主任教諭 千田 薫

第1 研究のねらい

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会, 2021）において、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況がある中、基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得できるようにするとともに、成長段階も踏まえて、それぞれの個性や能力に着目した最適な学びが求められていると示された。

「小学校学習指導要領解説特別活動編」（平成29年7月）では、「各教科等で学んだことを実際の生活において総合的に活用して実践すること」に特別活動の特質があるとし、学級活動の目標について、「合意形成したことについて、必要な役割や仕事を決めたり、それらを全員で分担したりするとともに、協力してやり遂げること」と説明している。

合意形成するまでの協働的な学びは、学級会として研究されており、過去10年の教育研究員特別活動部会の研究報告書も学級会の指導法に関する内容である。一方で、学級会における合意形成後に必要な役割や仕事を決めて、合意形成したことを実践する場面についての研究は少ない現状がある。そこで、特別活動の特質を生かし、学級活動の目標を達成する場面として、決めたことの実践に着目した。

その中で、各教科等との関連を図った教室環境の工夫をすることで、児童は、集団活動の中で「自分のできる役割は何か。」「自分のできることに責任をもって取り組むことができるか。」を自ら考え、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとすることができると考えた。

なお、本研究における「教室環境」とは、場所や空間だけでなく、使用する教材・教具、人間関係等も含むものとする。

第2 研究仮説

学級活動(1)の決めたことの実践において、各教科等との関連を図った教室環境の工夫をすれば、児童は自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとすることができるであろう。

第3 研究の内容と方法

1 調査研究

(1) 調査対象

「学級活動(1)において、児童は自己のよさを生かし集団活動に取り組んでいるか。」等の質問項目について、都内公立小学校6校、計60人の教員を対象とした意識調査を行った。

また、「学級活動(1)において、自己のよさを生かし集団活動に取り組んでいるか。」等の質問項目について、都内公立小学校1校、第1～6学年児童、計450人を対象とした意識調査を行った。

(2) 教員を対象とした調査の結果

「学級活動(1)では、活動過程のどこに指導の重点をおいているか。」という質問に、最も

多い回答は、「学級会で話し合いをするとき」で53人であった(図1)。「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編」(国立教育政策研究所教育課程研究センター,2019)では、「事前の活動」「学級会」「実践」「振り返り」を一連の学習活動としているが、調査結果からは教員の指導の重点が学級会に偏重しているという実態が明らかになった。

また、「学級会で決めたことの実践を充実させるために、教室環境の工夫として取り組んでいることは何か。」という質問においては、掲示板や児童の活動スペースが主な教室環境の工夫として取り組まれていた(図2)。

(3) 児童を対象とした調査の結果

「学級活動の時間で、すすんで取り組んでいるのはどこか。」という質問に対して、各学習過程間で大きな偏りは見られず、どの活動にも一定数の児童がすすんで取り組んでいた(図3)。

また、「学級活動の時間に、他の教科等で学んだことを生かしたことはあるか。」という質問に、「生かしていない。」と答えた児童は、低学年で42%、中学年で73%、高学年で86%であった(図4)。児童は、学級活動の時間に、他教科等で学んだことを生かすことに課題があることが分かった。

さらに、「自分の好きなことや得意なことを学級活動の時間で生かしたいと思うか。」という質問に、「思う。」「やや思う。」と答えた児童は78%であった。多くの児童は、自分の好きなことや得意なことを学級活動の時間で生かしたいと感じていることが分かった(図5)。

(4) 調査研究の分析と考察

教員・児童ともに、学級会での話し合いに対する意識が高いことが分かったが、児童は、決めたことの実践や準備に対しても意識が高いことが分かった。そこで、これまで教員が学級活動において実践してきた教室環境の工夫は、児童の課題を解決する上で活用できると考え

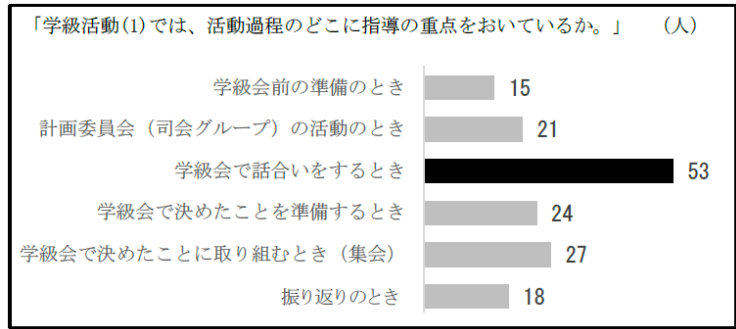


図1 教員対象の結果①(複数回答 n=60)

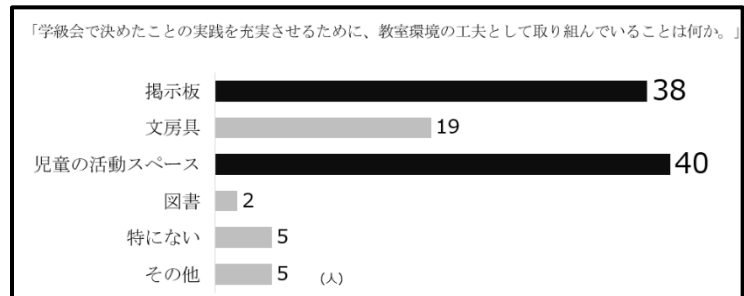


図2 教員対象の結果②(複数回答 n=60)

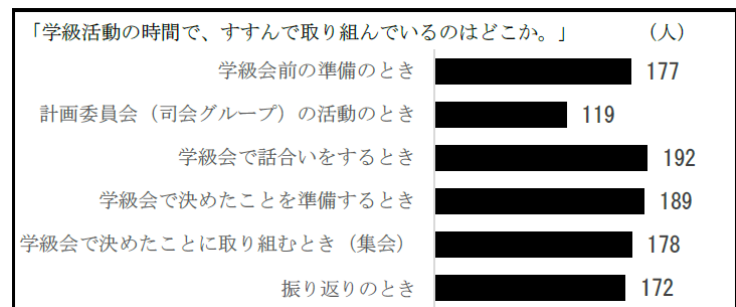


図3 児童対象の結果①(n=450)

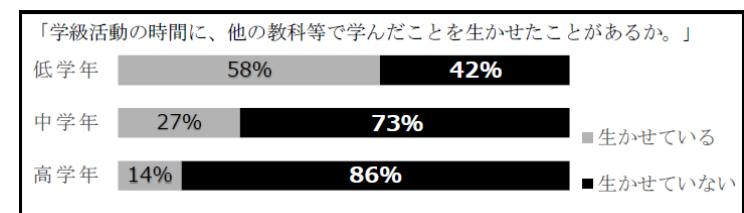


図4 児童対象の結果②(n=450)

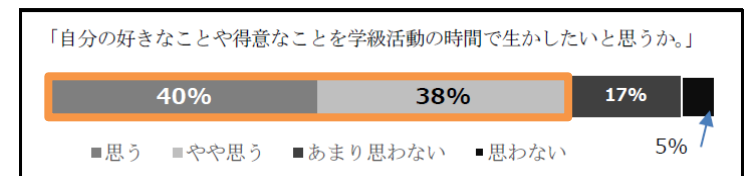


図5 児童対象の結果③(n=450)

た。加えて、掲示板や児童の活動スペースを生かし、更に他の教科等で学んだことを生かす手だてが必要であると考察した。

児童の意識に教員の指導観を合わせていく視点から、本研究では、実践に指導の重点を置き、特別活動の特質である各教科等で学んだことを活用し実践できるような手だてを開発する。

3 開発研究

各教科等で身に付けた資質・能力を特別活動(1)の学習に活用することを通して、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決できるようになることを目的として、「レガシディジタルボード」を開発した。「レガシディジタルボード」は、各教科等の学習で使用した教材・教具の写真や使い方をデータで蓄積し、児童自身が必要に応じて教材・教具を自己選択できるようにするツールである。「レガシディジタルボード」を参考にして選んだ教材・教具について、児童が実際に使用した感想や気付き等を入力することで、個人の経験を学級全体で共有して活用できるようにした(図6、図7)。



図6 「レガシディジタルボード」

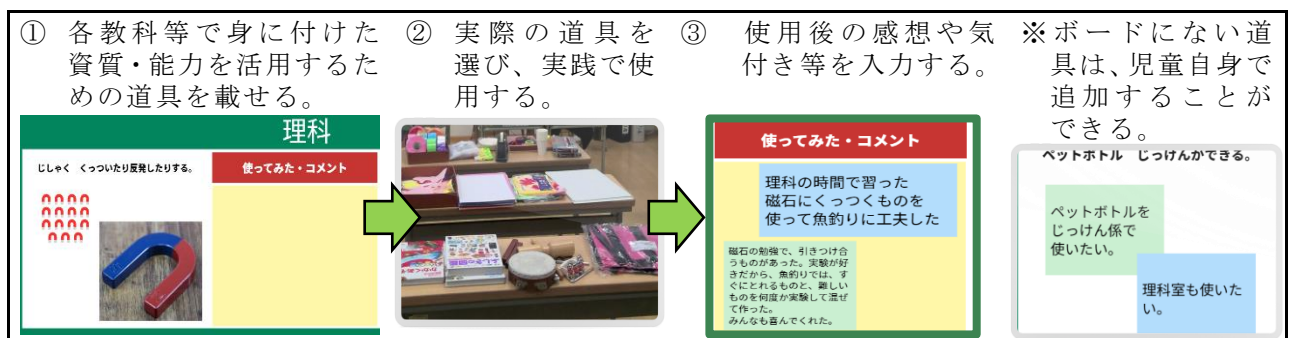


図7 「レガシディジタルボード」の使い方

4 検証授業と検証授業の分析

令和6年9月から10月にかけて、第2学年、第3学年及び第6学年で検証授業を実施した(表1)。

表 1 検証授業実施学級と内容・議題

低学年 2年1組	内容	イ 学級内の組織づくりや役割の自覚
	議題	「2がっきのかかりをきめよう」
中学年 3年2組	内容	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
	議題	「みんなで仲良く秋祭りをしよう」
高学年 6年1組	内容	ウ 学校における多様な集団の生活の向上
	議題	「みんながよさを発揮する体育祭にしよう」

(1) 各教科等との関連を図った教室環境の工夫

教室環境の工夫においては、幼稚園教育で実践されている意図的な環境構成を参考にした。また、都内公立幼稚園の教室レイアウトを、小学校の教室における教材・教具の配置に援用した。以下に、検証授業で活用した教材・教具の一例を示す(表2)。

表 2 児童が各教科等で身に付けた資質・能力を活用するための教材・教具例

低学年	国語	原稿用紙、画用紙、ペン
	算数	ストップウォッチ、タイマー
	生活	地図(地図がある理科室を利用する。)
	音楽	鍵盤ハーモニカ、タンバリン
	図画工作	接着剤、紙コップ、ストロー、花紙
中学年	国語	画用紙、半紙
	算数	折り紙、画用紙、定規、三角定規、コンパス
	理科	輪ゴム、紙コップ、割り箸、工作用紙、ビー玉、磁石、スチロール丸型水槽
	図画工作	モール、毛糸、リボン、紙粘土、絵の具、新聞紙、紙筒、画用紙、接着剤、ペットボトルのキャップ
高学年	国語	習字道具、画用紙
	算数	計算機、ストップウォッチ
	理科	カレンダー(準備や練習を計画するために、数日間の雲の動きなどを調べたり、映像などの情報を活用したりして、天気の変化を予想し、結果を記入する。)
	図画工作	色画用紙、のり、接着剤、花紙、スズランテープ、模造紙、ペン
	体育	バトン

(2) 検証授業の分析

検証授業後に、検証授業実施学級の児童を対象とした質問紙調査を実施した(図8)。

「学級活動の時間に、他の教科等で学んだことを生かしたことはあるか。」という質問において、肯定的な回答をした児童が52ポイント増加した。これは、「レガシィデジタルボード」を活用したことにより、各教科等で学習した内容を想起し、身に付けた資質・能力を発揮して活動に取り組むようになったことが影響していると考えられる。また、「学級活動の時間での役割に、責任をもって取り組もうと思うか。」という質問において、肯定的な回答をした児童が9ポイント増加した。これは、自分の好きなことや得意なことを生かして、学級のために役割や責任を果たそうとした結果であると考えられる。

なお、学級会後の実践に向けた準備は、休み時間や始業前の時間に行った。教員はそれらの時間においても児童を指導・支援し、気付きを引き出していた（表3）。

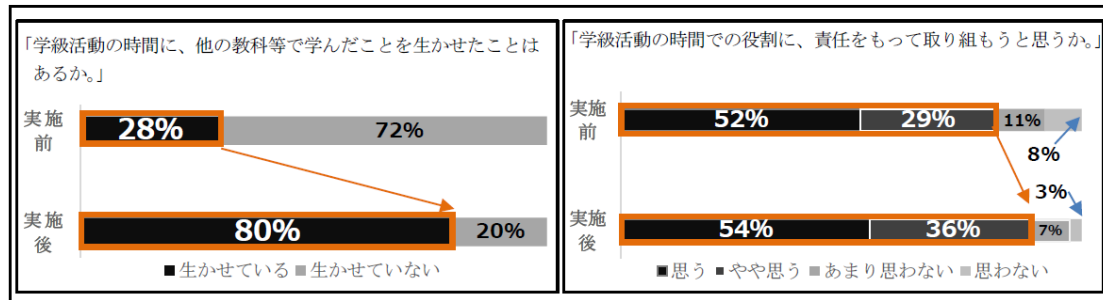


図8 児童対象の結果④ ※検証授業を実施した学級のみ（n=95）

表3 学級会後の実践やそれに向けた準備における教員の指導・支援と抽出児童の変容

	イ 低学年 「2がっきのかかりをきめよう」	ア 中学年 「みんなで仲良く秋祭りをしよう」	ウ 高学年 「みんながよさを発揮する体育祭にしよう」
児童の様子	実験係において、友達のおでこを指で押さえると立ち上がれない実験をし、何秒で立てるかを発表した。	輪ゴムを使用して、理科で身に付けた「ゴムの力は物を動かすことができること」を生かして弓矢や割り箸鉄砲を作ろうとしていた。	毛筆を使用して、国語科で身に付けた「穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと」を生かして、体育祭のスローガンの掲示物を作成しようとしていた。
教員の指導・支援	実験に挑戦する友達の結果を学級に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考えることができるような言葉がけをした。	もっと遠くへ矢を飛ばすにはどうしたらよいかを考えることができるような言葉がけをした。	教室の窓に掲示するためには、どのような太さや濃さであると分かりやすいかを考えることができるような言葉がけをした。
児童の変容	算数科で身に付けた「簡単な表を用いて表すこと」を生かして、挑戦した友達の時間を分かりやすく表で掲示しようとしていた。	更に遠くへ飛ばそうとするだけでなく、ゴムの長短を考えたり二重にしたりして、威力を高めようとしていた。	どのようにスローガンが見えるのか、友達と協力して見え方を確認し、筆の太さを変えて分かりやすくしようとした。

第4 研究の成果

教室環境の工夫の一つである「レガシィデジタルボード」の活用を通して、児童は、各教科等での学びを振り返りながら、新たな気付きを蓄積することができた。それにより、教員は、これまで見取り切れなかった児童の学びに気付き、効果的に多くの評価ができた。また、児童は、他教科等での学びを生かすことができることに気付くことができた。これらのことから、「レガシィデジタルボード」は、児童が身に付けた資質・能力を活用して活動に取り組むことができるようになる上で有用であることが示唆された。また、意欲的に活動するようになったことは、役割や責任を果たして集団活動に取り組むことにもつながっており、「レガシィデジタルボード」を活用する有用性の一端がここでも示された。

第5 今後の課題

学級活動(1)の一連の学習活動の積み重ねを通して、児童が各教科等で身に付けた様々な資質・能力を自ら活用できるようになることが肝要である。そこで、どの児童も幅広く資質・能力を活用できるような議題の設定については今後も検討していく。

また、「レガシィデジタルボード」を自校に広め、継続的に活用し、学習データとして蓄積

「自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとする児童の育成
ー学級活動(1)における、各教科等で身に付けた資質・能力との関連を図った教室環境の工夫を通してー」

していく。「レガシィデジタルボード」の情報量と児童の学びの質との相関について、引き続き研究していく。